

目黒の桜と史跡散歩

東京で人気の目黒川の桜、両岸から水面に垂れ下がる景色はすばらしいものです。今回は目黒駅に近い所で、桜を愛でながら、併せて史跡を訪ねてみる散歩です。目黒駅の東口を出ると、右側の広い通りが目黒通り、その通りをそのまま進み、交差点を渡った先に東京都庭園美術館があります。正門からゆったりとした道を歩いていくと、建物の前庭に美しく咲いた桜の木が目飛び込んできます。ここが旧朝香宮邸の東京都庭園美術館です。瀟洒な白亜の建物をバックに、薄いピンクの桜の花がよく似合います。旧朝香邸は以前迎賓館に使用されていた所で、色々な企画展がありますので、内装も楽しみながら展示を見るのもいいかもしれません。又庭園を散歩しながら出ることできます。来た道を目黒駅の西口まで戻り、目黒通りを渡って、左側の目黒雅叙園に向かう道を進みます。この道はかなり急坂で、有名な「行人坂」です。昔はこの付近は景勝地で有名な所で、ここから富士山もくっきりと眺められたようです。広重の錦絵「名所江戸百景」にも描かれています。さらに下ると、左側に大円寺というお寺があります。境内に入ると、左手には石仏の羅漢像があり、その風景に目を奪われます。説明板によると、江戸三大火事の一つの明和の大火（目黒行人坂火事）の火元になり、三日間燃え続け、江戸市中三分の一が焼きつくされたそうです。幕末に、その犠牲者の供養のために作られたものだそうです。もう一つこの寺に關しての話としては、この行人坂の大火の犯人を捕らえたのは、池波正太郎の時代小説、「鬼平犯科帳」の長谷川平蔵（通称）の父という話があります。父も同様に火付盗賊改方の役職

にあり、自首してきた犯人を検挙した。その後、火あぶりの刑に処してありますが、一説には平蔵の父らしく、自首して来たことともあり、江戸追放の罪を科したという説があるのも、面白いものです。さらに行人坂を下り、目黒川に掛かる太鼓橋をわたり、進むと山手通りに出ます。そこを左折して、次の羅漢寺の信号で、山手通りを横断し、斜め左に入る道を行くと、右側に「天恩山五百羅漢寺」があります。入った右側の羅漢堂には、本堂の中に納めきれない羅漢像がぎっしりと安置されています。木造羅漢像は全部で300体を超えているとか。一つ一つの羅漢像には名前と一言が添えられており、読みながら見ていくと、心が安らかになる感じがするのは不思議です。本堂にも多数の仏像と羅漢像があり、一見の価値があります。

お寺を出て、右に道なりの細い路地を進んでいくと、龍泉寺（通称目黒不動尊）の境内に入ります。山門の周りに咲く桜も見事です。境内は落ちていて、目黒川の喧嘩とした中で見る桜とは趣が異なり、静かに桜を愛でることが出来ます。階段が上がった先にある本堂周辺の桜も見事です。来た道に戻り、羅漢寺の信号まで行き、左へ進むと大鳥神社前の交差点に出ます。交差点を右に横断すると目黒駅の方に戻れます。目黒川に掛かる目黒新橋辺りでは、おなじみの目黒川の桜の景色も楽しむことが出来ます。是非散歩されてみてはどうでしょうか。(ミニコミ S・U)



目黒不動尊の桜

短歌へのいざない 春の歌

まだ寒い日もありますが、春が来ました。散歩がてら作歌もいいかもしれません。まずは、短歌の鑑賞をしてみませんか。

久方の光のどけき春の日に
しづ心なく花の散るらむ 紀友則

うららかな春。日の光のどかに、はるかかすむ空。遠い鳥のさえずり。あるかなきかの風。この柔らかな、静かな午後を、音もなくかき乱すように、ちらちらとちらちらと、やすみなく、桜の花が散り続ける。待ってくれ、花たち。なぜそのように急ぐのだ。とどまってくれ。もうほんの少し、今という時の中に。

作者は、清和天皇の皇子である貞元親王の孫という血統のよき、二十六歌仙の一人。片恋の歌が多い。詞書からみると、ほとんどが実体験。恋の手腕のほうは、歌のようにはいかなかつたらしい。

春の夜の夢ばかりなる手枕にかひなくたたむ名こそをしけれ 周防内侍

朧月に浮かれて、話し疲れて、枕が欲しいと思つたところに、御簾の下から差し入れて、あなたが腕をお貸しください。その志は嬉しいのです。けれど、いかがなものかしら。しよせん短い春の夜の、短い夢のよくなあなたのお情け。そんなはかない夢を見るため、手枕などをお借りしたら、浮名ばかりがむなく立つ。それが悔しゅうございませぬ。

宮中に仕える女性は、才能にも生まれにも恵まれた、華やかなキャリアウーマンだった。この歌は、夜通し物語をしていた作者が横になり、枕が欲しいといつたところ、大納言忠家が「これを枕に」と腕を差し出した。そのことを即興で詠んだもの。私たちが春の夜、仲間と語り合うのも楽しいかもしれないね。桜の下でお酒も最高です。(ミニコミ W・S)

可愛いパンダ シャンシャン

一月五日、寒い日でした。抽選で当たった「パンダが見られる券」を握りしめて、上野動物園に出掛けました。田園都市線、山手線を通りつぎ、まるで子どもの遠足のようでした。

動物園の入口には、早朝にもかかわらず百人以上の人が列を作っていました。九時三十分になると係員がパンダ舎の方に二十名ほど引率してくれ、「シャンシャンは今寝ています」と教えてくれました。そしてガラスに囲まれているパンダ舎の中を見せてくれました。係員の方のいうとおり、やはりシャンシャンは大きい丸太の切り株の上で丸くなって寝ていて、その姿はまるで縫いぐるみのようでした。



母親のシャンシャンは、ZZZZと寝ていました。一生懸命食べていました。時折シャンシャンの方を振り返り見守っていました。その姿は子どもを守る人間の母親と同様、微笑み深いものでした。外はとて寒かったですが、気持ちは、ほっこり暖かく帰宅することができました。(ミニコミ K・S)

行事報告

二月十一日 太子堂子どもマラソン大会
まずまずの天気にも恵まれ、三五六名が参加しました。
選手、ご家族の皆様お疲れ様でした。

行事予定

三月三十日 歩こう会
川崎市の県立東高根森林公園へ行きます。
五月十三日 太子堂あんしんフェア
ふれあい広場(出張所の隣)で開催します。